

2018年11月15日

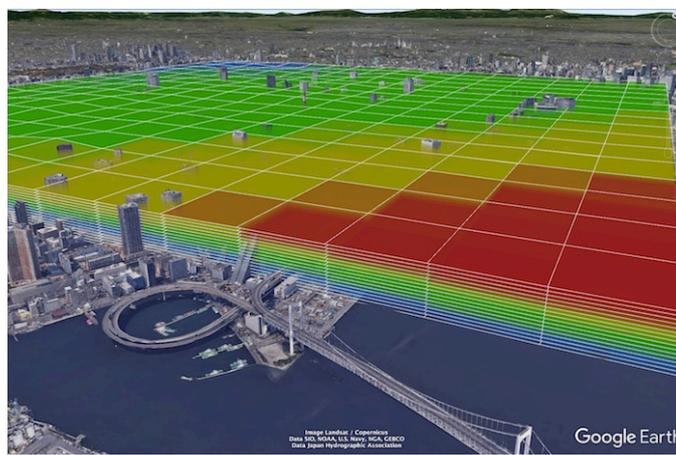
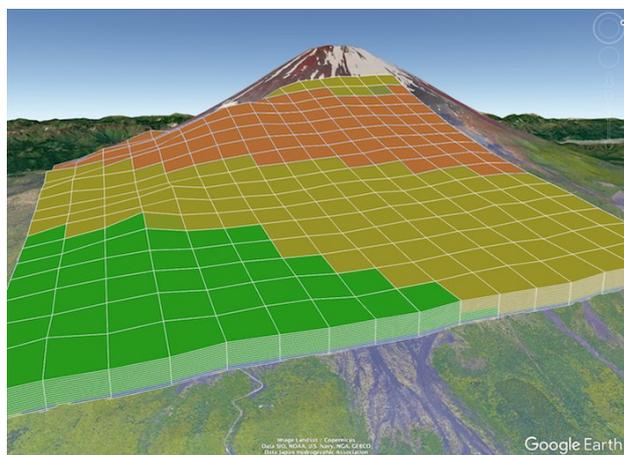
<報道発表資料>

株式会社ウェザーニューズ
KDDI 株式会社

ウェザーニューズと KDDI、ドローン向け高精細気象予測システムを開発 ～業界初の 250m メッシュ、高度 10m 単位の気象予測情報でドローン運航サポート～

株式会社ウェザーニューズ（本社:千葉県千葉市、代表取締役社長:草開 千仁、以下 ウェザーニューズ）と KDDI 株式会社（本社:東京都千代田区、代表取締役社長:高橋 誠、以下 KDDI）は、ドローンを使用する事業者向けにドローン運航のサポートを目的として、高精細気象予測システム（以下 本システム）を開発しました。本システムは KDDI が構築する「スマートドローンプラットフォーム」において 2018 年 11 月 15 日より利用可能となります。

本システムは、ウェザーニューズと KDDI の協業で基地局に設置している全国 3,000 カ所の気象観測装置「ソラテナ」や、ウェザーニューズが独自に収集している全国 10,000 カ所の気象データなどを活用することで開発されたシステムです。ドローンを運航するうえで、必須となる気象情報を業界初（注1）となる 250m メッシュ、高度 10m 単位で情報提供（注2）する事により、ドローンを使用する事業者をサポートします。



<業界初の 250m メッシュ、高度 10m 単位の高精細気象予測システム>

※富士山・都心部に適用した場合のイメージ図

2015 年 12 月から 2018 年 9 月に発生したドローン墜落などの事故 158 件の内、強風や雨など気象に起因した事故は約 15% に上ります（注3）。従来のドローン向け気象情報は 2km メッシュ、高さ 50m 単位が主流でしたが、安全運航のため、よりきめ細かい気象予測が求められています。さらにドローンが従来の気象情報をもとに運航し、危険な気象エリアを回避しようとした場合、ドク

ーンは大きな迂回が必要となり、バッテリーなどに大きな負荷がかかるなど課題があります。本システムはそのような迂回を最小限に止めることができるほか、事前に飛行可能ルートを選択肢を多く提供することで、ドローン運航の最適化に寄与します。また、上空 150m までの風予測もピンポイントに 10 分間隔で確認できるため、気象要因による事故の予防につながります。

本システムを活用することにより、例えば、人手不足が深刻な農業分野において、ドローンによる農薬散布時に、風予測から区域外への農薬飛散を防げます。また、全国各地の気象情報をピンポイントで提供するので、工事事業者がドローンを活用したインフラ設備などの点検時や測量を行う際や、災害現場で建物の倒壊や土砂崩れなどの恐れがある危険な場所での状況確認や捜索活動を行う際に、ドローン運航のサポートを通じて、安全面・コスト面・スピード面などで貢献します。

ウェザーニューズと KDDI は IoT 時代に向けソラテナを活用しており、今後、この高精細気象予測システムを工事事業者や農業、災害などの気象ソリューションに活用していきます。

(注 1) 国内の気象業界において。ウェザーニューズ調べ (2018 年 11 月 15 日時点)

(注 2) ドローンの運航に大きく影響する風向風速・地上降水量・天気のほか、気温・気圧・湿度の 6 つの気象情報を提供します。

(注 3) 出典：国土交通省「無人航空機に係る事故情報等の一覧」

(http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)

※本システムは、2018 年 10 月 25 日に実施した、遭難者救助を目的とした、ドローン山岳救助支援システムの実証実験で活用しています。

(<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2018/11/15/3484.html>)

以 上